

新たな果樹産地の育成と販路の確保

対象者 新規果樹栽培者および栽培希望者

【普及活動のねらい】

JAの直売所等では、消費者から果樹の販売を求める声が多く寄せられていました。この声を受けて、平成28年度から市・JA・普及指導センターなどが栽培者を募り、ぶどうとなしの新たな果樹産地づくりの取組を進めてきたところです。導入している栽培技術は、早期成園化軽労技術のぶどう根域栽培改良仕立てと、なし低樹高栽培です。

平成30年度末までの活動で、ぶどうは14戸92a、なしは9戸27aにおいて栽培開始されました。今年度は、栽培者の技術習得と新規栽培者の拡大および安定販売に向けた販路の確保を目指して活動しました。

【普及活動の内容】

集合研修と個別巡回による技術習得指導

次年度以降に結実を迎える栽培者には、ぶどうでは主枝の育成、なしでは主枝及び側枝の育成指導を行いました。

今年度に収穫を行う栽培者には、ぶどうでは芽カキと結果枝の誘引、ジベレリン処理と房づくり、カラーチャートを用いた収穫適期判断、せん定を指導しました。なしでは、黒星病防除、摘らい、受粉、摘果、側枝誘引、カラーチャートを用いた収穫適期判断、せん定などを指導しました。集合研修は、作業に先んじて実施し、集合研修実施後には技術習熟のためにJA営農指導員とともに巡回指導を実施しました。



収穫2年目のなし低樹高栽培

黒星病の防除精度向上のために「なしナビゲーションシステム」を試験導入

なしは、開花前から梅雨明けまでは黒星病防除が重要です。しかし、降雨と殺菌剤の残効期間を考慮しながらの防除実施の判断には習熟が必要です。

そこで、アメダスデータと防除実績から次の防除タイミングが判断できる千葉県が開発した「なしナビゲーションシステム」を試験導入し、適期防除の指導を行いました。実施農家からは、「防除タイミングがチャートで示されて判りやすい」との感想が聞かれ、黒星病の発病を軽減させることができました。



「なしナビゲーションシステム」のチャートによる防除指導

安定販売に向けた販路の確保

今年度の販売は、JA直売所でポップの掲出なども行い順調でした。しかし、将来にわたって産地がまとまりを持って安定販売を行うためには、複数の販売ルートを確認しておく

ことが重要であり、今後の販売に備えて、JA インショップでの販売や市場出荷について、出荷規格や荷姿などを関係者と協議しました。

新規栽培の拡大

地域農業センターの主催により、新規栽培者拡大のための研修会を3回開催しました。研修会は、先輩栽培者の果樹園で開催し、栽培開始に向けたアドバイスも先輩栽培者から行ってもらいました。

新たな栽培開始に際しては、予定ほ場の排水性の確認、低コスト棚の設計と施工指導、品種の選択と苗木の植付け指導など個別に指導を行いました。



市場関係者との出荷規格などの協議



根域制限栽培の紹介

【普及活動の成果】

技術習得については、集合研修と巡回個別指導を組み合わせることにより技術習熟を促進しました。また、「なしナビゲーション」を活用した黒星病防除は、次年度は全農家に拡大し防除精度の向上を目指します。

新規栽培者の拡大では、ぶどうで2戸0.8a、なしで3戸0.8aが新たに増え、ぶどうで16戸1ha、なしで11戸35aの栽培となりました。

販売については、JA直売所での本格的な販売は順調に開始されました。今後は、今年度の市場関係者との協議を基礎に、JAインショップと市場出荷での販路確立を支援します。

また、生産技術の相互研鑽や出荷規格と荷姿の統一などを行う生産者組織の確立と運営指導にも力点を置く予定です。



JA直売所へ出荷するぶどう生産者



JA直売所 地元産果樹のPOPでPR